

## 1. 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	4072200381		
法人名	社会福祉法人 宏志会		
事業所名	きらく荘 グループホーム		
所在地	〒838-0022 福岡県朝倉市城859番地 (電話)0946-21-5220		
自己評価作成日	令和3年8月10日	評価結果確定日	令和3年10月28日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

自然豊かな環境の中、四季折々の木々の彩りや動物の鳴き声、田園風景を感じながらその人らしい生活が送れます。また、地域の野菜や果物を手作りおやつや混ぜご飯の提供時に調理する等、季節を感じて頂けるよう工夫しています。同敷地内にある多床室型特養、ユニット型特養、通所介護、ケアプランサービス、小規模多機能ホーム、地域包括支援センターとの協力、連携体制が取れます。感染予防を行いながら、グループホームの行事・活動を通して季節を感じてもらい、気分転換や楽しみが増えるよう計画しています。ご利用者様の個別ケアや残存機能を活かし、暮らしの継続が出来るようお手伝いしています。また、ご利用者様・ご家族様が安心して頂けるよう報告・連絡に努めています。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://www.kai gokensaku.jp/">http://www.kai gokensaku.jp/</a>
-------------	---

## 【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社会福祉法人 福岡県社会福祉協議会
所在地	福岡県春日市原町3-1-7
訪問調査日	令和3年9月13日

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

緑に囲まれた少し高台の敷地に設置されており、自然等の季節感を感じることができる。近隣地域で災害があった経験があり、住民を避難させるなど地域に対し積極的に協力体制がある。敷地には、特別養護老人ホーム・通所介護・小規模多機能型居宅介護・包括支援センター等があり、福祉全般について相談することができる。新型コロナウイルス感染症対策として、1時間おきに換気を行い、館内の消毒を職員が実施している。出勤時は「検温・手指消毒」を行い、月に2回PCR検査を実施し感染対策を強化している。来訪者については、健康チェックシートの記入をお願いしている。

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>【I 理念に基づく運営】</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	各職員にアンケートを取り、グループホーム独自の理念作成し、部署会議時に唱和を行っている。唱和する事で、共有認識し、実践に繋げていくよう意識向上を図っている。また、事業所内に掲示して、見える化している。	地域密着型を踏まえた理念を掲げている。昨年度、職員にアンケートを実施し、職員全員で考えた理念となっている。事業所入口と各ユニットに掲示し、毎日唱和している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ前は地域行事等に招待を受け、地域の方を中心に積極的に参加したり、施設行事にもきて頂いたりしていた。コロナ禍により、感染予防の為地域行事等の中止や延期が多くなる中、受診時に外に出かけた際や散歩時に風景をみながら、地域の状況についてお話をしている。	コロナ禍で外出は制限している。近隣の風景を写真に撮り、事業所のテレビに映しながら、地域の状況等について会話をしている。面会は窓越しに行っている。コミュニティーセンターだよりを事業所内に掲示して近隣の情報を得ている。受診で外出する時は近隣を時間をかけて周り、外気に触れるよう心がけている。	
3	—	○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症専門の強みを活かして、各事業所内で勉強会を行ったり、病院・ご家族などの相談を受けたり、認知症の方の対応方法などのアドバイスも行っている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍の為、必要最低限の出席者で小規模多機能ホームと合同で会議に参加している。事業所の取り組んだ内容の発表や地域情勢などの発表を行い、地域の民生委員、老人会などの代表の方の意見を生かしている。	法人内の小規模多機能型と合同で開催している。緊急事態宣言発令時は書面で事業状況を説明している。委員からの意見については、電話で確認している。運営推進会議は2ヶ月に1回開催し、構成員は福祉センター館長・民生委員・老人会代表・包括支援センター職員・ご利用者・ご家族・職員である。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議や市役所・専門機関へ問題点などに関して直接相談を行い、随時、指導・助言を受けている。	敷地内に地域包括支援センターがあり、入居の問い合わせ等について連携を図っている。日頃から行政へ運営の相談等を行ったり、広報誌を配布する等、連携を図っている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	毎月リスクマネジメント会議にて、身体拘束についての課題や検討を行い、2ヶ月に1回は身体的拘束適正化検討委員会に報告している。また、部署内での身体拘束の勉強会実施し、意識統一を図っている。日中は出入り口の施錠はしていない。夜間帯のみ防犯の為、施錠を行っている。	年間研修計画を作成し、全ての職員が研修を受講できるように勤務体制など調整し実施している。新人職員研修では身体拘束をはじめ、介護に関する研修を行っている。職員休憩室に身体拘束の手引きを掲示し「身体拘束はしない」ことを職員に周知・徹底している。	

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	—	○虐待の防止の徹底  管理者や職員は、高齢者虐待関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	毎月リスクマネジメント会議にて、虐待の検討会を実施。そして、部署会議の時に話し合った内容を報告している。また、法人内の共通勉強会に参加したり、外部の研修を受けて、資料に目を通してもらい、虐待への各職員の意識の統一に努めている。		
8	6	○権利擁護に関する制度の理解と活用  管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、後見制度等を利用している方はいませんが、ご契約時にご家族様に成年後見制度等がある事を説明している。また必要に応じて、関係機関に相談出来るよう図っている。部署会議にて、権利擁護の勉強会を行い、各職員が学ぶ機会をとれるよう努めている。	研修を実施し、各職員は研修内容に関するコメントを提出している。権利擁護を周知するにあたって休憩室に資料を掲示している。入居契約時にパンフレットを活用し、家族に説明している。利用を考える方がいる時は地域包括支援センターに相談している。	
9	—	○契約に関する説明と納得  契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約前に料金の確認や必要なものなど、ご家族の質問に事前打ち合わせしたり、随時連絡を取り、ご家族の質問等に対応していった。介護更新時や料金改定時に説明・承諾を頂いている。また、ご家族様にもきちんと承諾頂いた書類をお渡しし、日頃より、ご家族様との関わりを密に、いつでも相談出来る関係作りに努めている。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映  利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族様・利用者様の要望や意見は日頃の会話から聞き取りを行っているが、3ヶ月に1回利用者懇談会を開催し、聞き取りしている。ご家族様に対しても、面会時や定期的に電話連絡して、要望や気になる事等を聞き取り、グループホーム運営に反映させている。	3ヶ月に1回「利用者懇談会」を実施し、利用者の希望を伺っている。意思表示が困難な方については、家族へ連絡して希望を伺っている。希望があった場合は、各担当に配布し改善出来る様に検討している。	
11	8	○運営に関する職員意見の反映  代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ご利用者様の日頃のケア方法や業務の運営について、部署会議や日頃から職場内で意見の出しやすい環境作りに努めている。業務の見直しが必要な場合は、まずはチームで検討・実施・評価してみても、決定をしている。職員に関する事で、年に2回個別面談を設けて、職員の考えや意見等を聞き取りしている。	全職員で自己評価に取り組み、管理者は各職員の意見等を聴取し、運営に反映させるよう努めている。介護業務は申し送りノートを利用して情報を共有している。	
12	—	○就業環境の整備  代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	仕事の悩みや人間関係など、日頃から職員の表情や言動等に目を向けて、その都度、話し合い・面談の時間を設けて、各職員の意見や考えを傾聴している。それぞれの意見等を参考に、得意分野を活かしていけるような環境作りをしている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13	9	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮していき生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している	職員の募集、採用に関しては法人採用規定により、特に年齢や性別は制限されていない。採用後は、研修を行い、部署ごとに指導者をつけて、個々に応じた個別指導を行っている。指導しながらも、長所を活かしながら、楽しく働けるよう環境作りをしている。	性別を問わず採用している。介護未経験者は入職後に資格を取得することができる。入職時は担当職員の指導があり、その人に合った新人研修を行い、業務指導に当たり働きやすい環境を構築している。	
14	10	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、利用者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	ご契約時、ご家族様にホームページや新聞での写真掲載について確認・同意をとっている。年に1回は人権擁護の勉強会を実施し、人権への知識・認識の共有をしている。また、ニュースや回覧物で気になる事があった際は、職員の目の届く場所に掲示している。	人権擁護の勉強会を年間計画に取り入れ、職員全員が参加できるようにし、人権教育に取り組んでいる。また、研修記録や報告書を整備している。	
15	—	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	力量や知識向上の為、外部研修（オンライン）や部署会議での勉強会の講師をしてもらっている。また、新職員の指導担当についてももらい、指導方法を考えてもらい、共に成長していけるような取り組みをしている。		
16	—	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ禍で直接的な交流は少なかったが、地区の協議会記念誌発行や介護保険改定時の情報をFAXや電話で共有し、自部署の職員にも知り得た情報を伝える事で、サービスの質や知識向上に繋げていった。		
<b>【Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援】</b>					
17	—	○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	日頃よりご利用者様とのコミュニケーションを取りながら、ご家族様が困っている時や要望に傾聴し、随時、安心して生活して頂けよう話し合い・検討・対応している。		
18	—	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の意向などに対して、入所時に聞き取りを行い、細目に連絡・報告を行い、要望や意向にそれるよう、日頃よりコミュニケーションをとり、共に考えて解決出来るよう努めている。		

項目番号		項目	自己評価	外部評価	
自己	外部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19	—	○初期対応の見極めと支援  サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご利用者様・ご家族様の実情や要望に伴い、必要に応じて医療機関や福祉用具などの機関に相談・付き添い・対応をした。また、介護度が上がり、状態によって特養施設の説明・申し込みの声掛けをご家族に行った。ご利用者様・ご家族様の負担軽減の為に一部の方、往診へと切り替えた。		
20	—	○本人と共に過ごし支え合う関係  職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	介護度によって、職員の介入が必要な方もいるが、個々の出来る事を探し、ご自身で出来る範囲の事を職員と一緒に、洗濯物干しやタンスの整理・寝具交換などを行っている。		
21	—	○本人を共に支え合う家族との関係  職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご利用者様の高齢化やコロナ禍での心身の状況変化に伴って、対面での面会が出来ない分、家族との細目な連携が多くなっている。お互いに気になっている事など、相談しやすい関係性に努めている。		
22	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援  本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍で地域に出向く事は出来なかったが、法人内の事業所のご利用者様で、お知り合いの方に短時間の面会をしたり、ご親戚の方に絵手紙やハガキを書いて、関係継続できるよう支援の工夫をした。	コロナ禍のため外出による交流は制限されているため、家族や馴染みの人との関係を継続するために職員が手紙を代筆するなどしている。事業所に届いた年賀状や暑中見舞いのお礼状は返信している。利用者は電話で家族や友人との会話を楽しんでいる。	
23	—	○利用者同士の関係の支援  利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずにご利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者様間の関係性を把握し、日中は自由に活動できるようユニット内を行き来され、ご利用者様同士がお部屋でお話されたり、食事がすすまない方に対して、食事の声をかけたり、お互いに気にかけて、支え合っている。		
24	—	○関係を断ち切らない取り組み  サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用が終了されたご利用者様・ご家族様に対しても、移り変わった所で安心して暮らせるよう出来る範囲での情報やケアの工夫などを他事業所職員に伝え、ご本人様の状態確認などを行っている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>【Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント】</b>					
25	12	○思いや意向の把握  一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	ご利用者様一人ひとりが、その人らしく暮らして頂けるように、利用者様の思いや意向を職員が聞き取りし、その場で出来る事は連携を取り・実施している。すぐに対応が困難な場合は、ご家族に相談・検討後に実施している。	日々の関わりの中で職員は利用者の思いに耳を傾けている。加えて3ヶ月毎に利用者、職員が参加し開催される懇談会で意向を把握している。意思疎通が困難な方については、アセスメントの中で家族より情報を聞いている。把握した情報については、申し送り等にて情報を共有している。	
26	—	○これまでの暮らしの把握  一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前に事前にご家族から聞き取りを行い、利用者様の生活歴や今までされていた仕事などの留意点を、各職員が事前に把握して入所後も不安なく生活の継続が出来るよう取り組んでいる。また、会話の中で知らない情報などが出てきた際は、ご家族に確認し、職員間で共有している。		
27	—	○暮らしの現状の把握  一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の過ごし方やご利用者様の日々の中での行動や変化について、個別日課チェック表を活用して情報把握出来るようにしている。また部署会議にて対象者を決めて、ご利用者様の出来る事などの意見収集し、支援方法や個別対応している。		
28	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング  本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族の面会時やご利用者様との会話の中から意見や要望の聞き取りを行い、介護計画見直しや状況変化時に定期的にカンファレンスを行い、多職種の意見を踏まえた上でプランに反映している。定期受診の際は、主治医に上申して参考意見を頂いている。	介護計画については、利用者の状態に応じて3~6ヶ月毎に見直しを行っている。立案については計画作成担当者が利用者や家族の意向を伺い、介護担当者や看護師、主治医の意見を聴いて作成している。コロナ禍のため、家族の要望等については来訪時や電話連絡の際に、日頃の情報を伝えたくえで聞き取りを行っている。	
29	—	○個別の記録と実践への反映  日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録に介護計画の状況や詳細事項を記録に残している。実施後、経過や留意点、改善点などの検討・実施しての介護計画の見直しを行っている。		
30	—	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化  本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご利用者様・ご家族のニーズに対して、その場、その時のニーズに合わせて、その都度早期対応出来るよう検討している。また、要望が既存のサービスでは困難な場合は、ご家族に相談して協力体制をとっている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31	—	○地域資源との協働  一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍で地域の行事等の中止が多く、地域との関わりが希薄となっている。その為、運営推進会議等で、地域の方たちの意見や関わりを持っている。また、地域の行事に変わり、事業所内で行事を計画したり、昔の夏祭り等のDVDをみたり、地域の風景を施設敷地内からみている。		
32	14	○かかりつけ医の受診支援  受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所前に主治医の確認をし、家族の方で対応できる方は、馴染みの医師による継続的な医療をご家族に依頼している。また、契約時に協力医院がある事も伝えている。コロナ禍で、感染を気にされてご家族様からのかかりつけ医の変更の要望があり、協力医院への往診に変更された方もいる。	馴染みのかかりつけ医を主治医として継続している。入居後、事業所の嘱託医や協力医へ引き継ぐ場合も、適切な医療が継続できるよう連携を行っている。受診時は家族と通院介助の方法や情報の伝達方法について話し合い、情報提供や送迎などを行っている。	
33	—	○看護職との協働  介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎朝、バイタルチェック、再検査を行い、各時間帯の申し送り時にご利用者の状態報告し、体調変化がある際は、ご家族に連絡・説明し、情報共有して早期の受診対応に繋げている。		
34	—	○入退院時の医療機関との協働  利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院された時は、ご家族に付き添いADLや生活状況などの説明を行い、看護添書を持参している。コロナ禍で面会は限られている為、定期的にご家族や病院に連絡して、経過情報の確認を行っている。退院が決まった時点で早急に日程調整して、受け入れ対応している。		
35	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援  重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に事業所の状況を説明し、重度化や終末期について説明・指針に同意書をとっている。また、生活している中で、状況をみながら、随時、今後についての支援の方向性について、ご家族やかかりつけ医と相談・話し合いを行っている。	重度化した場合や終末期の対応について、入居前に方針等を説明し同意を得ている。入居後も利用者の状態や、利用者や家族の思いの変化に応じて、話し合いの場を設けている。希望によっては法人内の特養と連携を図ることもあり、より柔軟な対応ができるようにしている。	
36	—	○急変や事故発生時の備え  利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事業所にて、定期的の日勤帯・夜勤帯で想定出来る事例を用いて、緊急シュミレーションの勉強会を実施している。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	コロナ禍で消防署からは来れないとの事でしたが、年2回火災や水害などの避難訓練する前にアドバイスをもらい、職員間で今までしてきた事の復習しながら実施した。運営推進会議で地域の方に避難訓練の参加を声掛け・促した。事業所でも、週2回職員間で災害に対しての避難経路の確認やBCPの勉強会・内容の検討を行っている。	火災や風水害、地震などの災害については法人全体としてマニュアルの整備を行い、避難訓練を実施している。コロナ禍以前は地域の消防署の協力のもと訓練を実施していた。災害対応の備蓄品についても定期的に確認や見直しを行っている。	
<b>【IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援】</b>					
38	17	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご利用者様の想いを尊重し、居室やトイレに入室する際は、ノックしてご利用者様に確認して対応している。ご利用者様の個人情報やプライバシーに関する内容に対して、自尊心に配慮し、申し送る際は職員近くによって話すよう気をつけている。また、プライバシー保護の勉強会を行い、職員意識するよう努めている。	尊厳ある対応やプライバシーなどについては、入職時や勉強会にて説明を行っている。最近ではSNSの取扱いや様々なハラスメントなどの注意点なども加えている。日頃も名前の呼び方や羞恥心に配慮する場面など対応に配慮している。	
39	—	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご利用者様との会話の中で、気にされている事や要望に対して相談があり、その都度、各利用者担当やユニット間で検討し、ご家族様に相談・依頼したりしている。ヤクルトさんや自動販売機で飲み物の購入を希望される方に対して、職員一緒に付き添い買い物支援をしている。		
40	—	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご利用者様のその時々々の気分や要望に対して、希望に添えるよう時間を工夫したり、職員間で申し送りをして、ご本人様のペースに寄り添う支援を行っている。		
41	—	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時にお化粧などの身だしなみを整えたり、季節や時間帯によって服装を選んだり支援している。ご面会時や入浴時、ご利用者様と一緒に着る洋服を選んでいる。また、散髪時もお自身で希望する長さを確認しながら散髪対応をしている。		
42	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	コロナ感染予防しながら、日常の食事の準備でご利用者様の食事量の確認しながらつぎ分けをしたり、片付けや炊飯の準備をご利用者様と一緒にしている。月2回おやつ作りでは、午前・午後と役割分担しながら、作って皆で食べている。時折、他事業所にもお裾分けをしている。	食事は委託先より搬入されるが、ご飯はユニット内で炊き、近隣住民からのお裾分けを1品付けるなど工夫している。食事の準備で盛り付けや配膳、片付けで茶碗を洗うなど利用者と一緒にいき、役割を持っていただくようにしている。月2回はおやつ作りの機会があり、利用者の楽しみとなっている。茶碗や湯呑などは使い慣れたものを使用するようにしている。	



項目番号		項目	自己評価	外部評価	
自己	外部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	—	○栄養摂取や水分確保の支援  食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量が分かるように個別日課チェック表に記載し、水分を好まれない方は、好みの飲み物や水筒を準備したりしている。食思がない方に対して、ご家族にも協力してもらい、好みの物を持参してもらっている。月1回体重測定をしており、必要に応じて、毎日経過をみて、体重増減の確認をしている。		
44	—	○口腔内の清潔保持  口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	時折、口腔ケアの必要性についてレクを通してご利用者に伝えたり、毎食後の口腔ケアは個別で行っている。ご自身で出来る方は、声掛け・見守りを行って確認している。口腔内で気になる事がある場合は、ご家族に相談して希望される方は、訪問歯科にみてもらい、説明・指導を受けて対応している。		
45	19	○排泄の自立支援  排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の状況に合わせたパットを使用し、失禁が少ない方は、ご家族やご本人様と相談した上で布パンツに変更したり、その日の体調によって使い分けたりしている。排泄の失敗が多い方に対しては、細目にトイレへの声掛けを行い、ご本人様の不快感や自尊心を傷つけないよう配慮している。	新しく入居した方や退院後などは「排泄データ表」を用いて排泄パターンなどをチェックし、一人ひとりの状態を把握している。可能な限りトイレでの排泄に向けて取り組んでおり、紙おむつなどの使用についても安易に使用せず、必要性をカンファレンスで検討している。	
46	—	○便秘の予防と対応  便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個々の排泄パターンを把握し、薬だけではなく、水分や運動、トイレ時にマッサージを行っている。ご家族様にも協力してもらい、ヨーグルトやヤクルト等の乳酸菌を持参してもらい、食事と一緒に提供している。		
47	20	○入浴を楽しむことができる支援  一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった入浴の支援をしている	本人様の入浴希望の回数に応じて行っている。ご利用者様によっては体調や排便状況によって入浴拒否される事もあるので、入りたい日、入りたい時間帯に調整して入浴している。冬至にはゆず風呂にして、季節感を感じて頂いている。入浴拒否が続く方に対しては、清拭を促したり、毎日入浴の声掛けをしている。	毎日、入浴できるように準備し、利用者の希望に合わせて臨機応変に対応している。お湯の温度についても好みや身体状況に合わせて対応するようにしている。入浴を望まない場合は、時間を変えて声をかけるなどして対応している。季節に応じてゆず湯を使うなどして工夫している。	
48	—	○安眠や休息の支援  一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の生活習慣や体力等が違うので、個々に応じて対応している。テレビをゆっくりとみて過ごされる方や一旦休まれて、途中起きられる方もいるので、昼夜逆転にならないよう適度な時間帯で声掛けをしている。また、昼間の適度な活動も促して、夜の安眠に繋げていくよう努めている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	—	○服薬支援  一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服の処方箋は個人ごとにファイルにまとめて確認出来るようにしている。飲み忘れや誤薬がないよう確認し、分からない事は主治医・薬剤師に相談・確認をしている。降圧剤のある利用者様に対しては、薬の服用前に血圧測定して、低血圧にならないよう配慮している。		
50	—	○役割、楽しみごとの支援  張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活習慣を把握した上で、毎日新聞・地域の広報誌をご利用者様に声掛けて読まれたり、散歩や草取り、衣類の整理・整頓、天日干しとそれぞれの生活の好みに合わせて支援している。		
51	21	○日常的な外出支援  一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍で以前に比べて外出の機会が少なくなったが、病院受診後に戻る前に車中からお花をみたり、施設の敷地内にて、田園風景や季節の移り変わりを散歩しながら、少しでもご利用者様の気分転換になるよう工夫して支援している。	ユニットから自由に出られる中庭があり、毎日、外気に触れられる環境がある。散歩も希望に応じて敷地内を中心に行っている。買い物やドライブなどはコロナ禍のため中止しているが、以前は日常的に職員と買い物やドライブへ出かけたりしていた。	
52	—	○お金の所持や使うことの支援  職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理出来る方に関しては、ご家族の了解のものを管理してもらっている。ヤクルトや自動販売機のジュースを購入する際は、ご本人様がお支払い出来るように必要な金額、残金の確認などを支援をしている。		
53	—	○電話や手紙の支援  家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族に連絡したいとの希望があった時や職員からご家族に連絡した際に取次を行って話をしてもらっている。上手く伝わらない時は、職員が代わりにお伝えしている。定期的に絵手紙やコロナ禍で会えない分、写真を撮り、コメント記入してご家族やお孫さんなどに出している。		
54	22	○居心地のよい共用空間づくり  共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングや廊下には季節感が壁画でも感じてもらえるように掲示している。居室やリビングは明るく、換気は定期的に行っているが、空気清浄機も設置している。トイレは車椅子利用の方も使用出来るよう広く対応している。浴室は脱衣室と浴槽内の温度差がないよう配慮して温度調節している。	ユニット内は広々としており、ソファが置かれ、くつろぎの空間となっている。その中で職員は、リビングでの座席などについて、案内の際には、利用者同士の相性など念頭に置き、居心地よく過ごせるように気配りを行っている。中庭へ自由に出れる環境があり、利用者は思い思いに過ごしている。	

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55	—	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり  共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者様同士の関係性を考慮して、食事のテーブルやソファの配置を考え、ゆっくりと出来る環境・過ごしやすい居心地の良い空間作りに努めている。		
56	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮  居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご自宅で使用されていたタンスや椅子、洗濯物干しを生きがいにされている方に対してはハンガーラックをお部屋において、衣類の管理をしてもらっている。洗面台では、使い慣れた私物を置いたり、ご本人様が居心地よく過ごせるようにしている。	居室内にはベッドやタンス、洗面台、エアコンが標準設備として設えられている。それ以外の必要なものについては、使い慣れたテレビやソファ、タンスなどが持ち込まれている。また、思い出の品物や写真といった利用者が大切にしているものが飾られ、落ち着いた空間となっている。	
57	—	○身体機能を活かした安全な環境づくり  建物内部は一人ひとりの身体機能やわかる力を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	リビングで食事・テレビなど見た後に、自分で部屋やトイレに行かれたり、隣のユニットへ行きき、テーブル拭きや花の水やり、草取り、寝具交換、洗濯物干しなど、ご利用者様の出来る機能を活かして、見守りしながら生活支援している。トイレもシルバーカーや車椅子がゆっくりと入れる広さで、介助が必要な方は介助を行っている。		

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)	
<b>V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）</b>				
58	—	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：25, 26, 27)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者の
			<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいの
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいの
			<input type="radio"/>	④ほとんど掴んでいない
59	—	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：20, 40)	<input type="radio"/>	①毎日ある
			<input type="radio"/>	②数日に1回程度ある
			<input type="radio"/>	③たまにある
			<input type="radio"/>	④ほとんどない
60	—	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：40)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
61	—	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：38, 39)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
62	—	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：51)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
63	—	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：32, 33)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
64	—	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：30)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんど掴んでいない

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		（該当する箇所を○印で囲むこと）	
<b>V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）</b>				
65	—	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 （参考項目：9, 10, 21）	○	①ほぼ全ての家族と
				②家族の2／3くらいと
				③家族の1／3くらいと
				④ほとんどできていない
66	—	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 （参考項目：2, 22）	○	①ほぼ毎日のようにある
				②数日に1回程度ある
				③たまにある
				④ほとんどない
67	—	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 （参考項目：4）	○	①大いに増えている
				②少しずつ増えている
				③あまり増えていない
				④全くいない
68	—	職員は、生き生きと働いている。 （参考項目：11, 12）	○	①ほぼ全ての職員が
				②職員の2／3くらいが
				③職員の1／3くらいが
				④ほとんどいない
69	—	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2／3くらいが
				③利用者の1／3くらいが
				④ほとんどいない
70	—	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	①ほぼ全ての家族等が
				②家族等の2／3くらいが
				③家族等の1／3くらいが
				④ほとんどいない

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>【I 理念に基づく運営】</b>					
1	1	○理念の共有と実践  地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	各職員にアンケートを取り、グループホーム独自の理念作成し、部署会議時に唱和を行っている。唱和する事で、共有認識し、実践に繋げていくよう意識向上を図っている。また、事業所内に掲示して、見える化している。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい  利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ前は地域行事等に招待を受け、地域の方を中心に積極的に参加したり、施設行事にもきて頂いたりしていた。コロナ禍により、感染予防の為地域行事等の中止や延期が多くなる中、受診時に外に出かけた際や散歩時に風景をみながら、地域の状況についてお話をしている。		
3	—	○事業所の力を活かした地域貢献  事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症専門の強みを活かして、各事業所内で勉強会を行ったり、病院・ご家族などの相談を受けたり、認知症の方の対応方法などのアドバイスも行っている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み  運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍の為、必要最低限の出席者で小規模多機能ホームと合同で会議に参加している。事業所の取り組んだ内容の発表や地域情勢などの発表を行い、地域の民生委員、老人会などの代表の方の意見を生かしている。		
5	4	○市町村との連携  市町村担当者とは頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議や市役所・専門機関へ問題点などに関して直接相談を行い、随時、指導・助言を受けている。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践  代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	毎月リスクマネジメント会議にて、身体拘束についての課題や検討を行い、2ヶ月に1回は身体的拘束適正化検討委員会に報告している。また、部署内での身体拘束の勉強会実施し、意識統一を図っている。日中は出入り口の施錠はしていない。夜間帯のみ防犯の為、施錠を行っている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	—	○虐待の防止の徹底  管理者や職員は、高齢者虐待関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	毎月リスクマネジメント会議にて、虐待の検討会を実施。そして、部署会議の時に話し合った内容を報告している。また、法人内の共通勉強会に参加したり、外部の研修を受けて、資料に目を通してもらい、虐待への各職員の意識の統一に努めている。		
8	6	○権利擁護に関する制度の理解と活用  管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、後見制度等を利用している方はいませんが、ご契約時にご家族様に成年後見制度等がある事を説明している。また必要に応じて、関係機関に相談出来るよう図っている。部署会議にて、権利擁護の勉強会を行い、各職員が学ぶ機会をとれるよう努めている。		
9	—	○契約に関する説明と納得  契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	介護更新時や料金改定時には十分な説明を行い、承諾を頂いている。また、ご家族様にも、きちんと承諾頂いた書類をお渡している。日頃より、ご家族様との関わりを密に、いつでも相談出来る関係作りに努めている。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映  利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族様・利用者様の要望や意見は日頃の会話から聞き取りを行っているが、3ヶ月に1回利用者懇談会を開催し、聞き取りしている。ご家族様に対しても、面会時や定期的に電話連絡して、要望や気になる事等を聞き取り、グループホーム運営に反映させている。		
11	8	○運営に関する職員意見の反映  代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ご利用者様の日頃のケア方法や業務の運営について、部署会議や日頃から職場内で意見の出しやすい環境作りに努めている。業務の見直しが必要な場合は、まずはチームで検討・実施・評価してみ、決定をしている。職員に関する事で、年に2回個別面談を設けて、職員の考えや意見等を聞き取りしている。		
12	—	○就業環境の整備  代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	仕事の悩みや人間関係など、日頃から職員の表情や言動等に目を向けて、その都度、話し合い・面談の時間を設けて、各職員の意見や考えを傾聴している。それぞれの意見等を参考に、得意分野を活かしてけるような環境作りをしている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13	9	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮していき生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している	職員の募集、採用に関しては法人採用規定により、特に年齢や性別は制限されていない。採用後は、研修を行い、部署ごとに指導者をつけて、個々に応じた個別指導を行っている。指導しながらも、長所を活かしながら、楽しく働けるよう環境作りをしている。		
14	10	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、利用者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	ご契約時、ご家族様にホームページや新聞での写真掲載について確認・同意をとっている。年に1回は人権擁護の勉強会を実施し、人権への知識・認識の共有をしている。また、ニュースや回覧物で気になる事があった際は、職員の目の届く場所に掲示している。		
15	—	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	力量や知識向上の為、外部研修（オンライン）や部署会議での勉強会の講師をしてもらっている。また、新職員の指導担当についてもらい、指導方法を考えてもらい、共に成長していけるような取り組みをしている。		
16	—	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ禍で直接的な交流は少なかったが、地区の協議会記念誌発行や介護保険改定時の情報をFAXや電話で共有し、自部署の職員にも知り得た情報を伝える事で、サービスの質や知識向上に繋げていった。		
<b>【Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援】</b>					
17	—	○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	日頃よりご利用者様とのコミュニケーションを取りながら、ご家族様が困っている時や要望に傾聴し、随時、安心して生活して頂けるよう話し合い・検討・対応している。		
18	—	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の困っている事や要望に真摯に受け止め、いつでも気軽に相談できるよう日頃よりコミュニケーションを図り、共に考えて解決出来るよう努めている。		



項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19	—	○初期対応の見極めと支援  サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご利用者様・ご家族様の実情や要望に伴い、必要に応じて医療機関や福祉用具などの機関に相談・付き添い・対応を行った。また、介護度が上がった際には、特養施設の説明・申し込みの声掛けを行った。ご家族やご利用者様の状態を見極めながら、往診対応に切り替えた。		
20	—	○本人と共に過ごし支え合う関係  職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご自宅でやってきた生活の継続が出来るよう洗濯物干しや畳み、米とぎ、食器洗いなど職員と一緒にしている。おやつ作りでは、おやつ作りの手順をお互いに確認しながら作っている。		
21	—	○本人を共に支え合う家族との関係  職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご利用者様の状況変化に対して、家族に報告できる関係にあり、体調不良時や依頼に対しても、相談しやすい関係が築けている。		
22	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援  本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍で地域に出向く事は出来なかったが、法人内の事業所のご利用者様で、お知り合いの方に短時間の面会をしたり、ご親戚の方に絵手紙やハガキを書いて、関係継続できるよう支援の工夫をした。		
23	—	○利用者同士の関係の支援  利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずにご利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	活動によって場所を変えたり、必要に応じて席替えをして、他者との交流やご利用者様間が上手くいくように支援している。ご利用者様の中には、思いを上手く伝える事が出来ない方もいるので、職員が間に入って、他者との関わりをもてるよう努めている。		
24	—	○関係を断ち切らない取り組み  サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用が終了されたご利用者様・ご家族様に対しても、移り変わった所で安心して暮らせるよう出来る範囲での情報やケアの工夫などを他事業所職員に伝え、ご本人様の状態確認などを行っている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>【Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント】</b>					
25	12	○思いや意向の把握  一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	利用者様の思いや意向を職員が聞き取りし、その場で出来る事は連携を取り・実施。意思疎通が困難な方は、表情や反応、生活の変化等から把握に努め、ご家族に相談・検討後に実施している。		
26	—	○これまでの暮らしの把握  一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前に事前にご家族から聞き取りを行い、利用者様の生活歴や今までされていた仕事などの留意点を、各職員が事前に把握して入所後も不安なく生活の継続が出来るよう取り組んでいる。また、会話の中で知らない情報などが出てきた際は、ご家族に確認し、職員間で共有している。		
27	—	○暮らしの現状の把握  一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の過ごし方やご利用者様の日々の中での行動や変化について、個別日課チェック表を活用して情報把握出来るようにしている。また部署会議にて対象者を決めて、ご利用者様の出来る事などの意見収集し、支援方法や個別対応している。		
28	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング  本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族の面会時やご利用者様との会話の中から意見や要望の聞き取りを行い、介護計画見直しや状況変化時に定期的にカンファレンスを行い、多職種の意見を踏まえた上でプランに反映している。定期受診の際は、主治医に上申して参考意見を頂いている。		
29	—	○個別の記録と実践への反映  日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録に介護計画の状況や詳細事項を記録に残している。実施後、経過や留意点、改善点などの検討・実施しての介護計画の見直しを行っている。		
30	—	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化  本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご利用者様・ご家族のニーズに対して、その場、その時のニーズに合わせて、その都度早期対応出来るよう検討している。また、要望が既存のサービスでは困難な場合は、ご家族に相談して協力体制をとっている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31	—	○地域資源との協働  一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍で地域の行事等の中止多く、地域との関わりが希薄となっている。その為、運営推進会議等で、地域の方たちの意見や関わりを持っている。また、地域の行事に変わり、事業所内で行事を計画したり、昔の夏祭り等のDVDをみたり、地域の風景を施設敷地内からみている。		
32	14	○かかりつけ医の受診支援  受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所前に主治医の確認をし、家族の方で対応できる方は、馴染みの医師による継続的な医療をご家族に依頼している。また、契約時に協力医院がある事も伝えている。ご利用者様の認知面の進行に伴い、通院受診が難しくなって来た事もあり、ご家族・かかりつけ医と検討し、通院から往診に変更した。		
33	—	○看護職との協働  介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎朝、バイタルチェック、再検査を行い、各時間帯の申し送り時にご利用者様の状態報告し、体調変化がある際は、ご家族に連絡・説明し、情報共有して早期の受診対応に繋げている。		
34	—	○入退院時の医療機関との協働  利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院された時は、ご家族に付き添いADLや生活状況などの説明を行い、看護添書を持参している。コロナ禍で面会は限られている為、定期的にご家族や病院に連絡して、経過情報の確認を行っている。退院が決まった時点で早急に日程調整して、受け入れ対応している。		
35	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援  重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に事業所の状況を説明し、重度化や終末期について説明・指針に同意書をとっている。また、生活している中で、状況をみながら、随時、今後についての支援の方向性について、ご家族やかかりつけ医と相談・話し合いを行っている。		
36	—	○急変や事故発生時の備え  利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事業所にて、定期的の日勤帯・夜勤帯で想定出来る事例を用いて、緊急シュミレーションの勉強会を実施している。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	16	○災害対策  火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	コロナ禍で消防署からは来れないとの事でしたが、年2回火災や水害などの避難訓練する前にアドバイスをもらい、職員間で今までしてきた事の復習しながら実施した。運営推進会議で地域の方に避難訓練の参加を声掛け・促した。事業所でも、週2回職員間で災害に対しての避難経路の確認やBCPの勉強会・内容の検討を行っている。		
<b>【IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援】</b>					
38	17	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保  一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご利用者様の想いを尊重し、居室やトイレに入室する際は、ノックしてご利用者様に確認して対応している。ご利用者様の個人情報やプライバシーに関する内容に対して、自尊心に配慮し、申し送る際は職員近くによって話すよう気をつけている。また、プライバシー保護の勉強会を行い、職員意識するよう努めている。		
39	—	○利用者の希望の表出や自己決定の支援  日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご利用者様との会話の中で、気にされている事や要望に対して相談があり、その都度、各利用者担当やユニット間で検討し、ご家族様に相談・依頼したりしている。ヤクルトさんや自動販売機で飲み物の購入を希望される方に対して、職員一緒に付き添い買い物支援をしている。		
40	—	○日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースに合わせて、レクや散歩、入浴、食事など、ご本人様に確認しながら個別支援を行っている。		
41	—	○身だしなみやおしゃれの支援  その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご面会時や入浴時、ご利用者様と一緒に着る洋服を選んでいる。また、散髪時ご自身で希望する長さを確認しながら散髪対応している。ご家族様には、以前好まれて着ていた服装などの聞き取りしたりして、ご本人様の好むおしゃれが出来るように心掛けている。		
42	18	○食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	コロナ感染予防しながら、日常の食事の準備でご利用者様の食事量の確認しながらつぎ分けをしたり、片付けや炊飯の準備をご利用者様と一緒にしている。月2回おやつ作りでは、午前・午後と役割分担しながら、作って皆で食べている。時折、他事業所にもお裾分けをしている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	—	○栄養摂取や水分確保の支援  食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量が分かるように個別日課チェック表に記載し、水分を好まれない方は、好みの飲み物や水筒を準備したりしている。食思がない方に対して、ご家族にも協力してもらい、佃煮や梅干しなど持参してもらい、食事環境やタイミング、食器等などを変更しながら栄養をとってもらえるよう支援している。		
44	—	○口腔内の清潔保持  口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアは個別で行っている。ご自身で出来る方は、声掛け・見守りを行って確認している。口腔内で気になる事がある場合は、ご家族に相談して希望される方は、訪問歯科にみてもらい、説明・指導受けて対応している。		
45	19	○排泄の自立支援  排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の状況に合わせたパットを使用し、失禁の状況によって、昼間と夜間帯で布パンツとりハビリパンツの使用方法を分けている。また、ご本人様の自尊心が傷つかないように細目なトイレへの声掛けと確認をしている。介助が必要な方も定期的なトイレへの声掛けし、タイミングをみて介助している。		
46	—	○便秘の予防と対応  便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個々の排泄パターンを把握し、薬だけではなく、水分や運動、トイレ時にマッサージを行っている。ご家族様にも協力してもらい、ヨーグルトやヤクルト等の乳酸菌を持参してもらい、食事と一緒に提供している。		
47	20	○入浴を楽しむことができる支援  一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった入浴の支援をしている	本人様の入浴希望の回数に応じて行っている。ご利用者様によっては体調や排便状況によって入浴拒否される事もあるので、入りたい日、入りたい時間帯に調整して入浴している。冬至にはゆず風呂にして、季節感を感じて頂いている。入浴拒否が続く方に対しては、清拭や足浴から促したり、毎日入浴の声掛けをしている。		
48	—	○安眠や休息の支援  一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夕食後は、ゆっくりとテレビをみたり、職員・ご利用者様間でお話をされたり、パズルや洗濯物を畳むのを手伝われたりと、それぞれのペースで過ごされて、ご自身の時間帯で休まれている。起床時間もご自身の時間帯で起きて来られるが、夜間不眠の場合は、ご本人様に声掛けして起床の確認をし、臨機応変に対応している。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	—	○服薬支援  一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服の処方箋は個人ごとにファイルにまとめて確認出来るようにしている。飲み忘れや誤薬がないよう確認している。服薬の拒否がある方や血圧が低い方などに対しては、ご家族・主治医・薬剤師に相談して、工夫・対応している。		
50	—	○役割、楽しみごとの支援  張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々に応じて好み等が違うが、リビングで歌番組の鑑賞をされたり、居室でご自身のペースで運動されている方もおり、ユニット内行ききして、ご自由にご利用者が過ごせる環境にしている。		
51	21	○日常的な外出支援  一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍で以前に比べて外出の機会が少なくなったが、ご家族に依頼して病院受診後に車中からお花をみたり、施設の敷地内にて、田園風景や季節の移り変わりを散歩しながら、少しでもご利用者の気分転換になるよう工夫して支援している。		
52	—	○お金の所持や使うことの支援  職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理出来る方に関しては、ご家族の了解のもの管理してもらっている。自動販売機のジュースを購入する際は、ご本人様がお支払い出来るよう支援をしている。		
53	—	○電話や手紙の支援  家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族に連絡したいとの希望があった時や職員からご家族に連絡した際に取次を行って話をしてもらっている。上手く伝わらない時は、職員が代わりにお伝えしている。定期的に絵手紙やコロナ禍で会えない分、写真を撮り、コメント記入してご家族やお孫さんなどに出している。		
54	22	○居心地のよい共用空間づくり  共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングや廊下には季節感が壁画でも感じてもらえるように掲示している。居室やリビングは明るく、換気は定期的に行っているが、空気清浄機も設置している。トイレは車椅子利用の方も使用出来るよう広く対応している。浴室は脱衣室と浴槽内の温度差がないよう配慮して温度調節している。		

項目番号		項目	自己評価	外部評価	
自己	外部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55	—	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり  共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者様同士の関係性を考慮して、食事のテーブルやソファの配置を考え、ゆっくりと出来る環境・過ごしやすい居心地の良い空間作りに努めている。		
56	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮  居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自分の好みの物やご家族の写真、アルバムを置かれたりしている。また、必要に応じてタンスやソファを置いている所もある。洗面台には、使い慣れたクリームやくし等、ご自身が使用しやすいようにしている。		
57	—	○身体機能を活かした安全な環境づくり  建物内部は一人ひとりの身体機能やわかる力を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	リビングで食事・テレビなど見た後に、自分で部屋やトイレに行かれたり、隣のユニットへ行きき、テーブル拭きや花の水やり、草取り、寝具交換、洗濯物干しなど、ご利用者様の出来る機能を活かして、見守りしながら生活支援している。トイレもシルバーカーや車椅子がゆっくりと入れる広さで、介助が必要な方は介助を行っている。		

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)	
<b>V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）</b>				
58	—	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：25, 26, 27)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者の
			<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいの
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいの
			<input type="radio"/>	④ほとんど掴んでいない
59	—	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：20, 40)	<input type="radio"/>	①毎日ある
			<input type="radio"/>	②数日に1回程度ある
			<input type="radio"/>	③たまにある
			<input type="radio"/>	④ほとんどない
60	—	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：40)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
61	—	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：38, 39)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
62	—	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：51)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
63	—	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：32, 33)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
64	—	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：30)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんど掴んでいない



項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		（該当する箇所を○印で囲むこと）	
<b>V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）</b>				
65	—	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 （参考項目：9, 10, 21）	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての家族と
			<input type="radio"/>	②家族の2／3くらいと
			<input type="radio"/>	③家族の1／3くらいと
			<input type="radio"/>	④ほとんどできていない
66	—	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 （参考項目：2, 22）	<input type="radio"/>	①ほぼ毎日のようにある
			<input type="radio"/>	②数日に1回程度ある
			<input type="radio"/>	③たまにある
			<input type="radio"/>	④ほとんどない
67	—	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 （参考項目：4）	<input type="radio"/>	①大いに増えている
			<input type="radio"/>	②少しずつ増えている
			<input type="radio"/>	③あまり増えていない
			<input type="radio"/>	④全くいない
68	—	職員は、生き生きと働いている。 （参考項目：11, 12）	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての職員が
			<input type="radio"/>	②職員の2／3くらいが
			<input type="radio"/>	③職員の1／3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
69	—	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2／3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1／3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
70	—	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての家族等が
			<input type="radio"/>	②家族等の2／3くらいが
			<input type="radio"/>	③家族等の1／3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない